

第三次『米谷地域づくり計画』

計画期間 令和7年度～令和11年度



種まき桜（江戸彼岸桜）

米谷地域づくり推進協議会
米谷地域づくり計画策定委員会

目 次

はじめに

第1章 計画策定の背景	2
1 地域づくりを推進する意義	2
2 地域の現状	2
(1) ひとの現状	
(2) 生活環境の現状	
(3) 米谷地域の沿革	
3 地域の課題	7
(1) アンケート調査の実施	
(2) アンケート調査の結果について	
(3) アンケートに寄せられた提言	
第2章 第二次計画の取組状況と課題	13
1 第二次計画の取り組み状況	13
(1) 第二次計画での基本テーマ	
(2) 第二次計画の実施体制	
2 第二次計画に取り組んでの成果と課題	14
第3章 基本方針	15
1 計画の目標	15
2 計画の期間	15
3 基本の方策	15
(1) 基本テーマ	
(2) 事業の進め方	
(3) 事業の見直し	
資料編	
資料1 策定委員名簿	18
資料2 策定スケジュール	19
資料3 策定委員会経過	20

はじめに

登米市では、市民が主体のまちづくりを進めることにより、住み良い地域社会の実現を図ることを目的に、平成24年に「登米市まちづくり基本条例」を制定しました。

この条例に基づき、米谷地域づくり推進協議会では、「米谷地域づくり計画」を策定し、地域住民が地域に愛着を持ち、安心して暮らせるよう取り組んでいます。

第一次計画は平成27年度を初年度とする5か年計画でしたが、この5か年の事業を検証し、令和元年度には、令和2年度を初年度とする新たな5か年計画となる第二次米谷地域づくり計画を策定し、各種事業を展開してまいりました。

今般、計画した5年間を終えるにあたり、新たな地域づくりのための5か年計画の策定に着手し、関係皆様のご協力により策定作業を進めておりました。

地域の皆様にはアンケート調査にご協力をいただくなど、計画策定に関わっていただきました。計画書ができあがりしましたので、どうぞご覧をいただき、策定に携わった方々の思いを汲み取っていただくと共に、計画の目指す目標が達成できますよう、皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

令和7年3月1日

米谷地域づくり推進協議会
会長 秋葉茂雄

第1章 計画策定の背景

1 地域づくりを推進する意義

地域づくりとは、「安心して、いきいきと暮らせる住みよい地域社会を構築するため、住民が主体となって地域課題を解決していく活動や取り組み」と言われています。

少子高齢化や人口減少など社会経済状況の変化などにより、一人暮らしや高齢者世帯など援護を必要とする方々の見守りや、災害時の助け合いなど、地域の課題が増大化・複雑化しています。また、人間関係の希薄化や地域活動への無関心など、地域コミュニティは厳しい状況にあります。

それでも私たちは、これらの変化と課題に対応して、この地域を住み良い地域、元気な地域として次の世代に引き継がなくてはなりません。

2 地域の現状

米谷地域は明治4年7月、廃藩置県の施行により米谷村として誕生しました。その後町村合併等により、米谷町、東和町米谷、登米市東和町米谷と変遷してまいりました。

登米市の東部に位置し、西に北上川、東南部は山地に囲まれた自然豊かな地域です。

行政組織としては、米谷地区には9つの行政区があり、それぞれに行政区長が選任されています。

(1) ひとの現状

平成21年から令和6年までの人口推移をみると、米谷地区の総人口は2,838人から2,072人へと766人、約27%減少しました。世帯数でも7.8%、69世帯減少しています。

表1 米谷地区の行政区別人口・世帯数の推移（各年3月末現在） 単位：人、世帯、%

		H21	H26	H31	R 6	H21～R 6 の増減率
米谷1区	世帯	146	131	125	117	△19.9
	人口	388	330	303	260	△33.0
米谷2区	世帯	103	96	89	81	△21.4
	人口	279	250	229	198	△29.0
米谷3区	世帯	226	249	265	250	10.6
	人口	719	730	703	589	△18.1
米谷4区	世帯	58	56	57	53	△8.6
	人口	220	204	181	142	△43.6
米谷5区	世帯	70	68	63	64	△8.6
	人口	262	232	191	178	△32.1
米谷6区	世帯	55	52	50	47	△14.5
	人口	167	150	141	120	△28.1
米谷7区	世帯	62	63	58	54	△12.9
	人口	202	189	175	148	△26.7
米谷8区	世帯	97	95	95	90	△7.2
	人口	366	350	312	268	△26.8
米谷9区	世帯	63	63	60	55	△8.3
	人口	235	223	199	169	△28.1
計	世帯	880	873	862	811	△7.8
	人口	2,838	2,658	2,434	2,072	△27.0

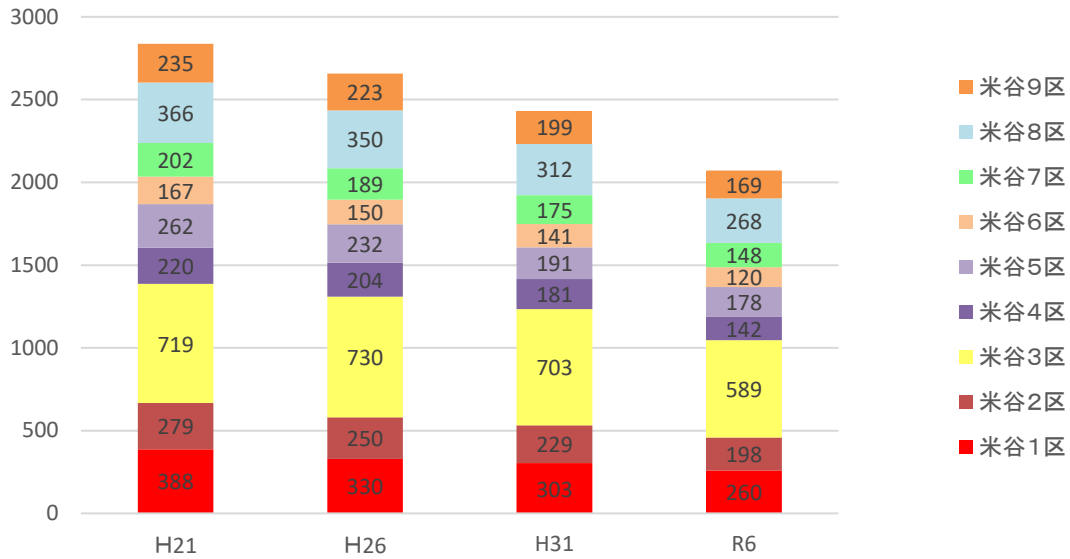


図1 米谷地区の行政区別人口の推移（各年3月末現在）

令和6年3月末の米谷の年齢別の人口は次のようになっています。65歳以上の人口は920人で、高齢化率は44.4%です。

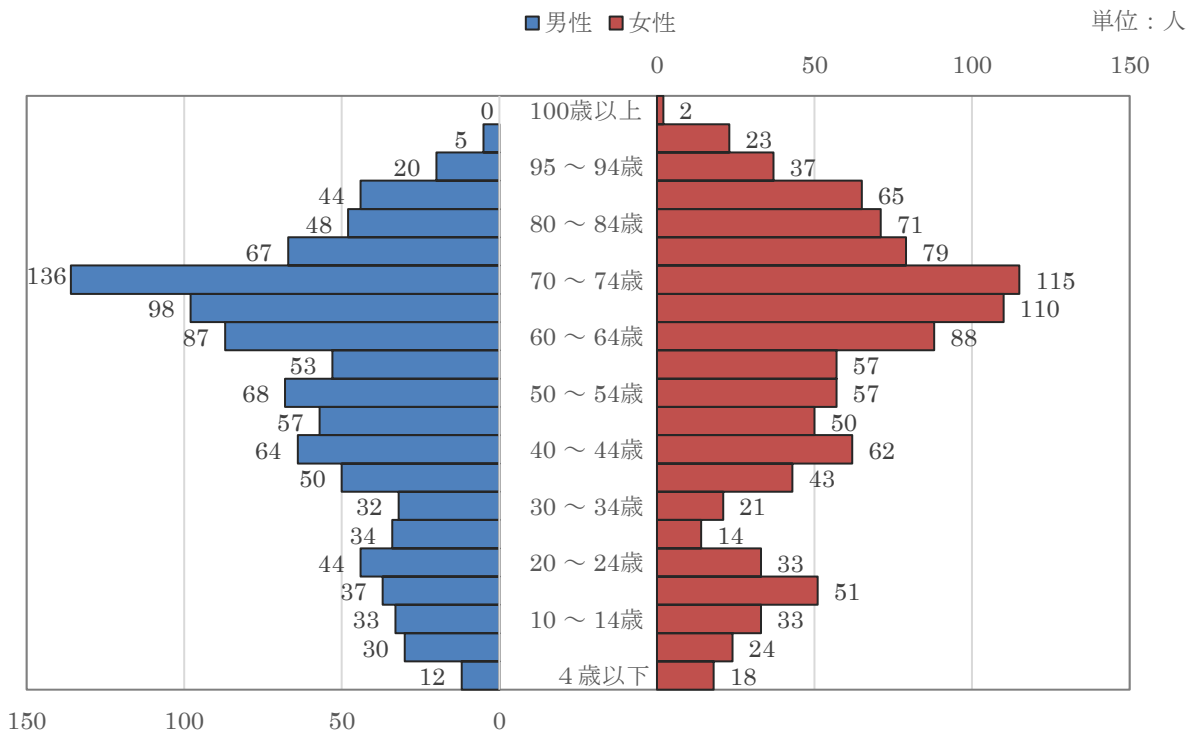


図2 米谷地区人口ピラミッド（令和6年3月31日）

5年ごとに行われる国勢調査での米谷地区の人口は、2000年には3,319人でしたが、20年後の2020年には2,223人と1,096人33%も減少しました。この減少は今後も続くとみられ、国勢調査を基にした人口推計でも、現在から10年後の2035年には1,507人と2025年の4分の3になると予想されています。

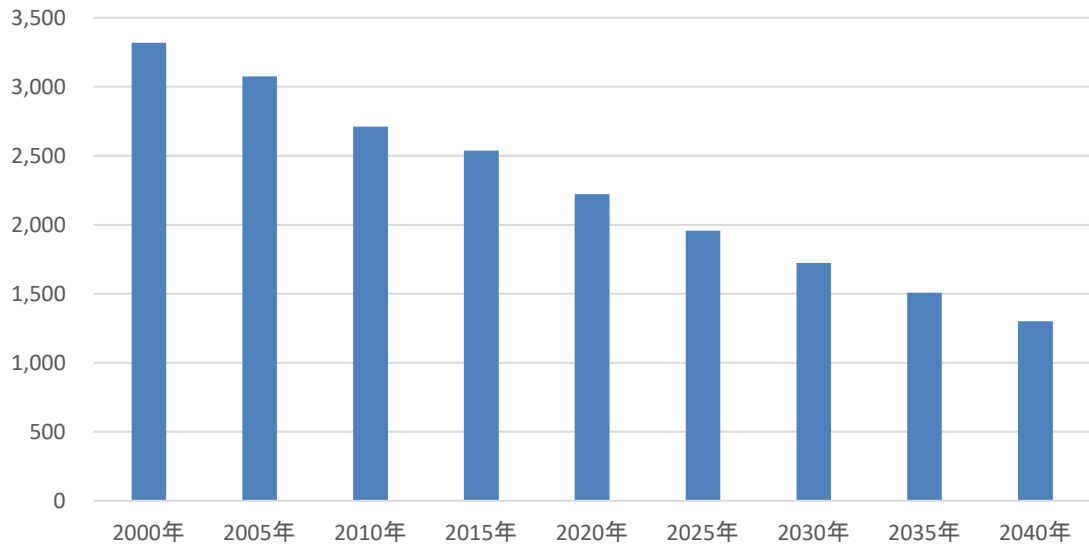


図3 米谷地区人口の推移（2020 以前は国勢調査実数、2025 年以降は推計値）

（2）生活環境の現状

①道路の現状

米谷地区には、地区の中心部を東西に国道398号が通っており、地区の北部には国道346号が通っていて、海岸部と内陸部をつなぐ交通の要所となっていました。しかし、三陸自動車道の開通により、地区内の国道を通行する車両数は大きく減少しました。交通量の減少は経済活動にも影響し、営業を継続することができなくなった商店も見受けられました。

②公共交通機関の現状

米谷地区内を通る公共交通機関としては、路線バスである市民バスが3路線、無料で利用できる住民バスが1路線、さらに患者輸送バスとスクールバスが運行されています。

ただし、住民バスと患者輸送バスは令和7年3月をもって廃止となり、新たな交通手段としてデマンド型乗合タクシーが運行されています。

③医療機関等の現状

現在米谷地区にある医療機関は、市立米谷病院だけとなっています。

米谷病院の診療科は内科、整形外科、小児科、神経内科、耳鼻咽喉科、泌尿器科の6科となっており、病床数は90床です。

福祉施設として、東和高齢者福祉施設があり、特別養護老人ホーム、デイサービス、生活支援ハウスの運営がなされています。

④教育施設の現状

米谷地区内にある教育施設としては、中学校1校、小学校1校がありますが、令和7年4月からは東和町内にあった小学校3校が統合し、新たな小学校が誕生します。ほかに認定こども園1園と社会教育施設として米谷公民館があります。

米谷公民館は、米谷地域づくり推進協議会が指定管理者として、施設管理、事業運営、団体育成等を行っています。現在の職員数は集落支援員1名を含む4名です。

なお、米谷地域づくり推進協議会は、公民館のほかに不老仙館の管理もを行っています。

表2 児童生徒数（令和6年5月1日現在）

人

学校名	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
東和中学校	27	46	31	—	—	—	104
米谷小学校	11	9	8	12	9	12	61

表3 園児数（令和7年1月1日現在）

人

園名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
米谷こども園	10	9	6	15	11	13	64

⑤防災の現状

米谷地区には北上川、二股川、大関川、恩田川など多くの河川があり、常に水害の危険がある地域です。十分な防災対策が必要であり、ハザードマップを作成し情報を提供すると共に、注意喚起をしております。さらには地震に対する備えも大事です。

災害時の避難所として、旧米谷小学校、旧米谷工業高等学校、米谷公民館（水害を除く）、東和中学校が指定されています。

火災予防に関しては、米谷地区には消防団の3つの分団があり、5台の消防ポンプ車（消防ポンプ積載車を含む）が配置され、火災予防活動を行っています。

交通安全に関しては、交通安全協会米谷支部が中心となり、交通事故防止対策をしています。交通死亡事故ゼロ2,000日を令和6年8月13日に達成しています。

⑥自然環境の現状

米谷地区内には川、山があり自然環境に恵まれた地域になっています。特に大関川の三滝堂ふれあい公園には、四季を問わず多くの観光客が訪れる人気の観光スポットとなっています。

⑦歴史、文化の現状

米谷地区に県指定の文化財を始め、多くの指定文化財があり、後世に残していかなければなりません。

表4 指定文化財一覧

指定区分	分類	名称	指定区分	分類	名称
県	天然記念物	東陽寺のイチョウ	市	史跡	大膳館遺跡
	建造物	不老仙館		天然記念物	相川のサイカチ
歴史資料	芭蕉の句碑	東昌寺のオンコ			
民俗文化財	細野神楽	白檀			

⑧新型コロナウイルスによる感染症の流行

令和2年1月に日本で初めて感染者が確認されてから、瞬く間に全国に広がり、登米市でも感染拡大を防ぐため、公共施設の利用に制限を加えるようになりました。これにより米谷公民館も休館を余儀なくされました。

その後、令和5年5月の5類移行に伴い、多くの規制が解除となり、公民館利用を始め各種事業の実施も可能となりました。

(3) 米谷地域の沿革

明治4年7月に廃藩置県の施行により米谷村が誕生しました。県北部登米市東和町の南部に位置し地区の北は市街地、西に北上川、東南部は山地に囲まれた水田地帯の山村です。

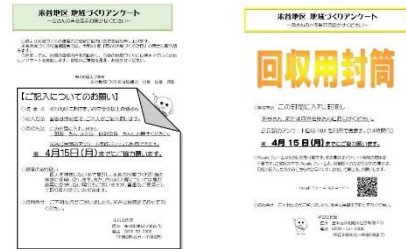
・明治4年10月	第一区米谷村が誕生する。
・明治5年	米谷村と楼台村が合併し秋実村と仮称した。
・明治6年3月1日	米谷郵便取扱所が設置される。(元町130番地) ※ 同年8月1日米谷郵便局に改称。
・明治8年10月17日	水沢県による村落統合により、楼台村が米谷村に編入される。
・明治22年4月1日	市町村制施行により、米谷村、錦織村、米川村は、ほぼ現在の区域区分となる。
・明治36年11月1日	米谷村から米谷町と改称になる。
・明治38年1月30日	米谷船橋竣工。
・大正10年	仙北鉄道米谷駅営業開始。(当時、米谷浅水駅)
・昭和5年7月	米谷大橋及び取付け道路竣工。
・昭和7年1月31日	七十七銀行佐沼支店米谷出張所。 (大正6年開設・東北実業銀行佐沼支店米谷出張所が改名)
・昭和18年12月	米谷病院は古川市の久美愛病院米谷分院として設置。
・昭和22年4月	米谷中学校開校。
・昭和26年3月	米谷中学校閉校。翌4月に浅水村に北上中学校開校。
・昭和27年3月31日	米谷、浅水、米川、三町村組合立米谷高等学校設立。
・昭和31年9月30日	錦織村と米川村が合併し日高村となる。米谷町は存続。
・昭和31年10月	米谷病院は米谷町と中田町の組合立病院として設立。 (翌年町村合併により東和町と中田町の組合立病院となる)
・昭和32年5月1日	米谷町と日高村が合併し東和町が誕生する。
・昭和57年1月12日	米谷大橋架け替えによる開通式を挙げる。
・平成17年3月6日	米谷公民館が日面1から秣荷75に移転落成式。
・平成17年4月1日	登米郡8町と本吉郡津山町が合併し登米市が誕生する。
・平成20年	三陸道に架かる新米谷大橋竣工。
・平成22年3月22日	三陸自動車道登米東和インターが開通する。
・平成23年3月11日	東日本大震災により甚大な被害を受ける。
・平成28年4月16日	三陸自動車道三滝堂インターが開通する。
・平成28年10月24日	米谷郵便局新築移転営業開始。
・平成29年4月1日	道の駅三滝堂が開所する。
・令和2年4月	コロナ感染症により公共施設の使用が制限される
・令和2年10月19日	七十七銀行米谷支店が米谷から移転する。
・令和7年3月21日	米谷小学校閉校記念式典が行われる。
・令和7年4月1日	米谷小学校、錦織小学校、米川小学校が統合し東和小学校開校。

3 地域の課題

(1) アンケート調査の実施

第三次地域づくり計画を策定するにあたり、米谷地域に生活する方々が、日常感じていることや、第二次計画で取り組んだ事業に対する考え方などを聞かさせていただくため、アンケート調査を実施しました。

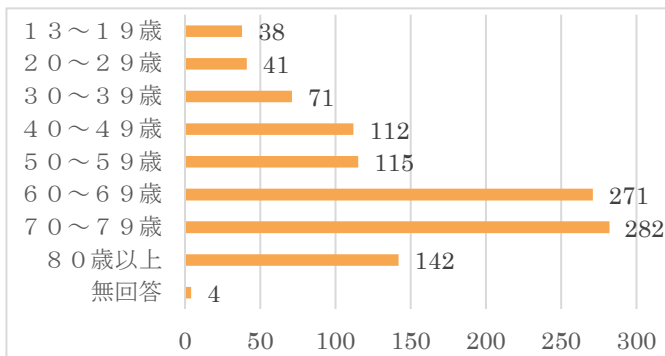
- ・実施時期 令和6年3月18日～4月15日
- ・対象者 米谷在住の中学生以上
- ・回収状況 配布数 2,000
回収数 1,076
回収率 53.8%
- ・調査項目 以下のとおり



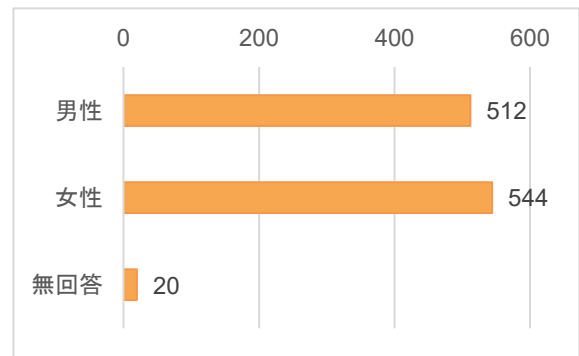
(2) アンケート調査の結果について

設問は全部で13項目、各設問に対する回答は次のようになりました。

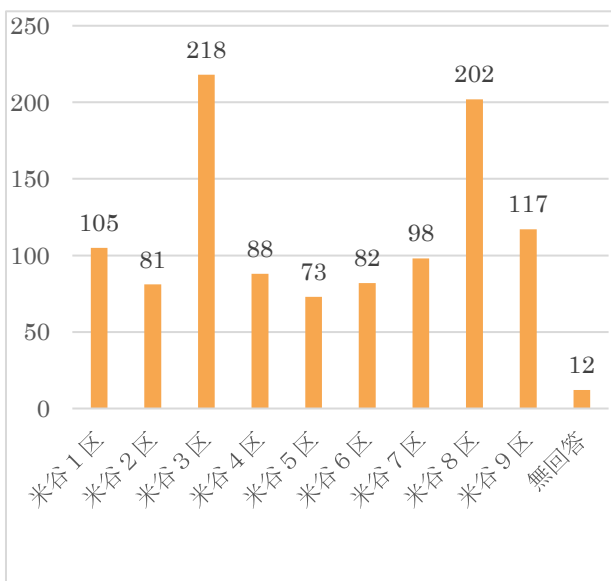
問1. あなたの年齢を教えてください。



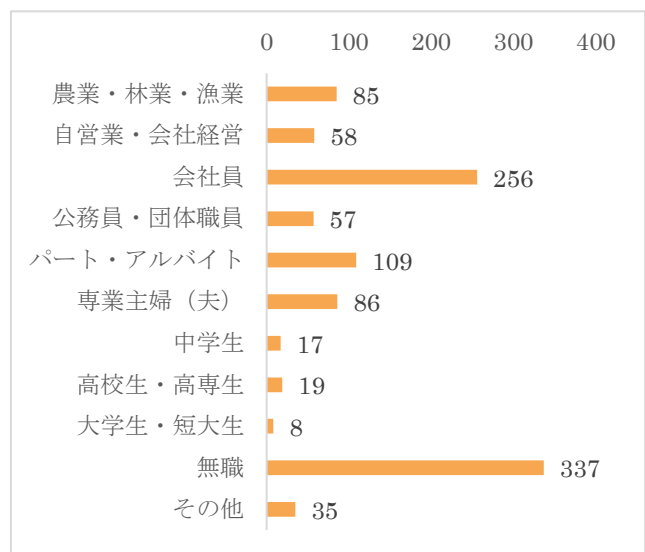
問2. 性別を教えてください。



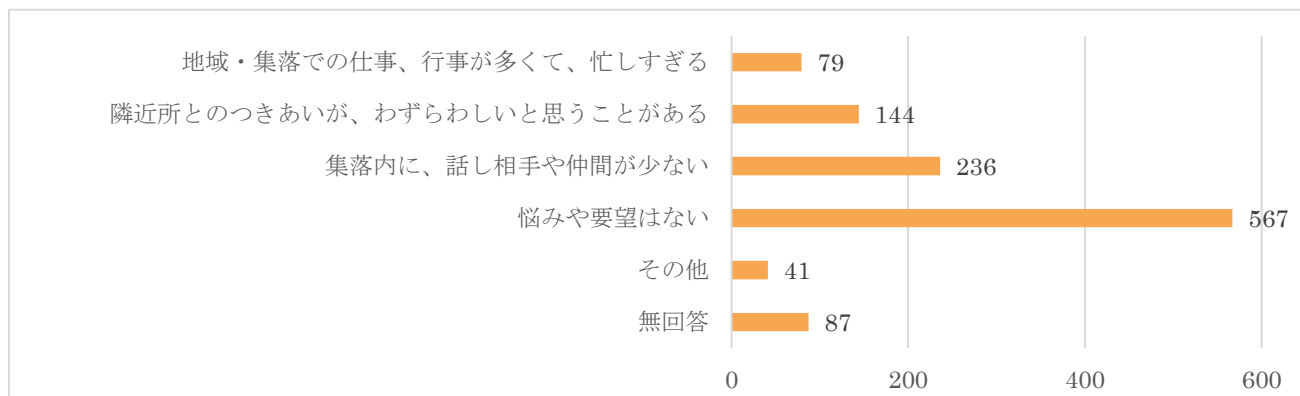
問3. あなたのお住まいはどの地域ですか。



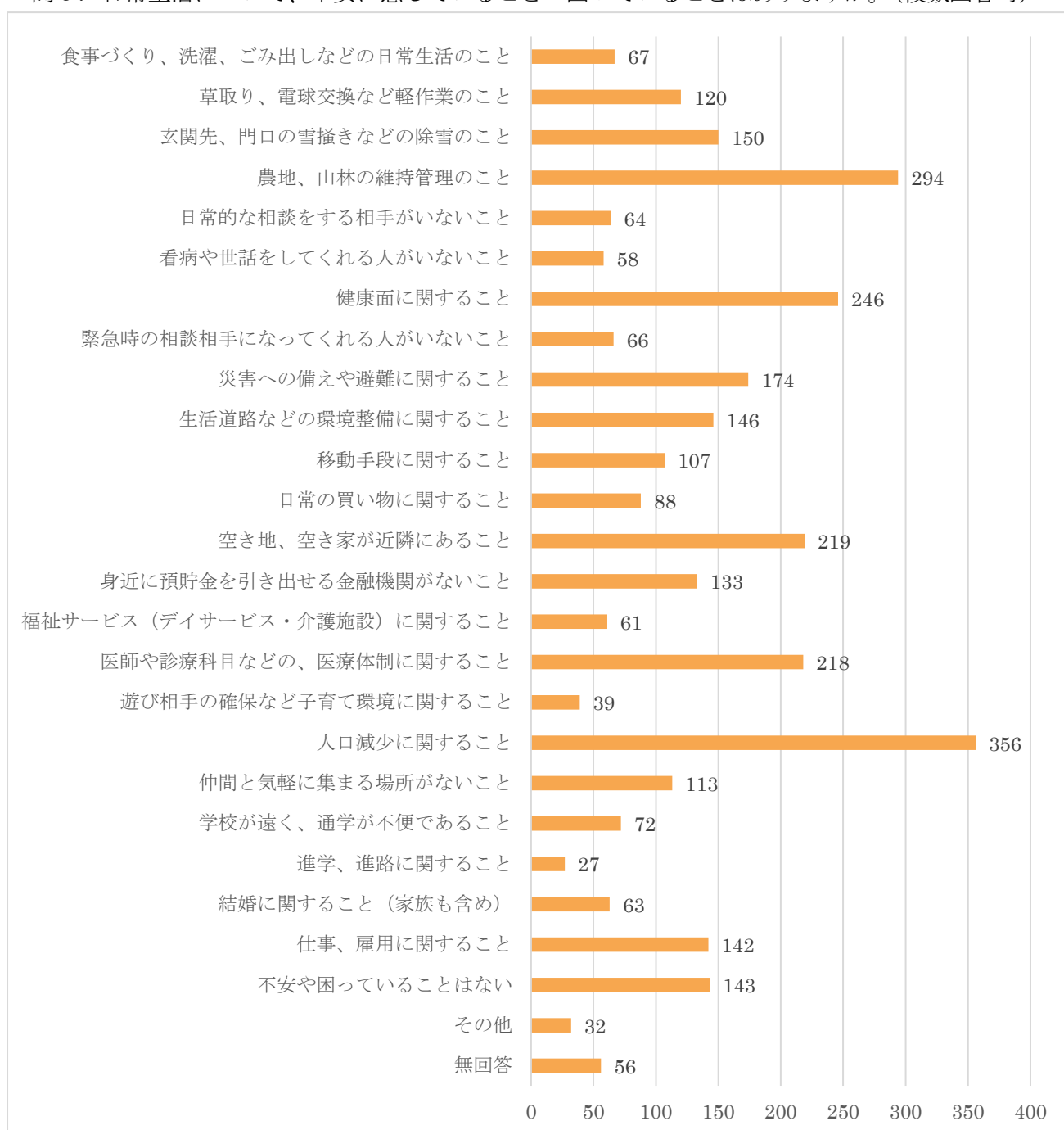
問4. あなたの職業等を教えてください。



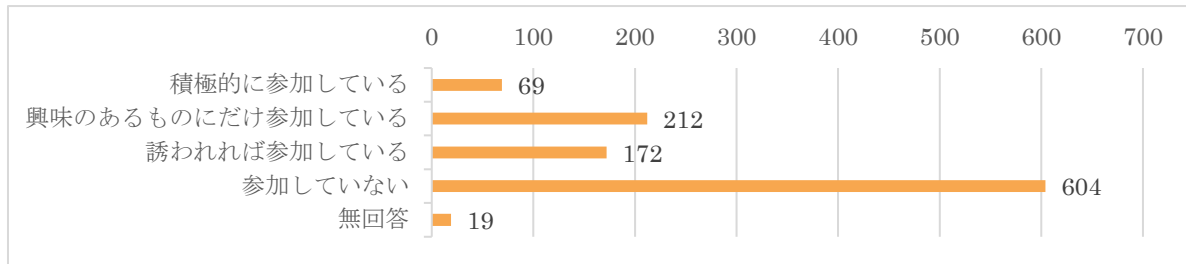
問5. 近所との付き合いについて、悩みなどはありますか。(複数回答可)



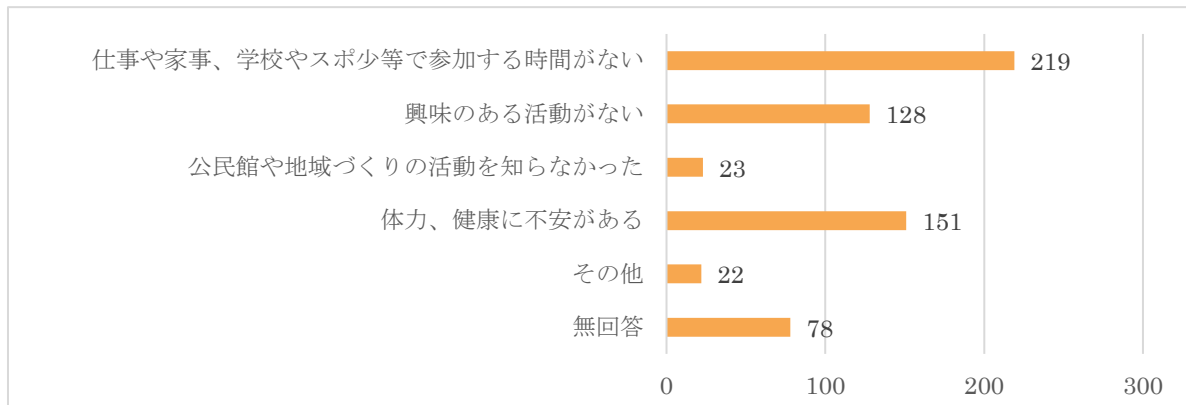
問6. 日常生活について、不安に感じていること・困っていることはありますか。(複数回答可)



問7. あなたは公民館・地域づくりの活動に参加したことがありますか。

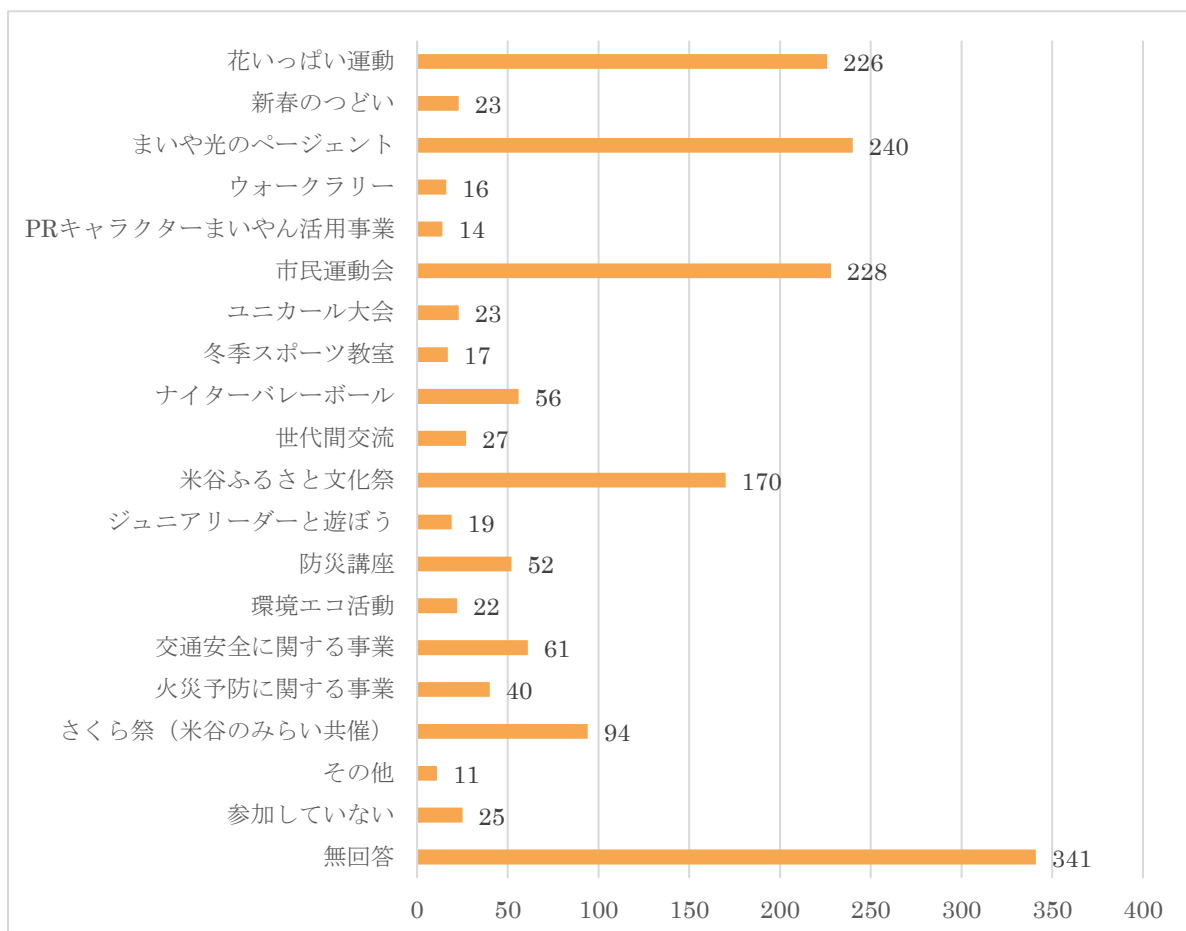


問8. 問7で参加していない方にお聞きします。参加していない理由を教えてください。

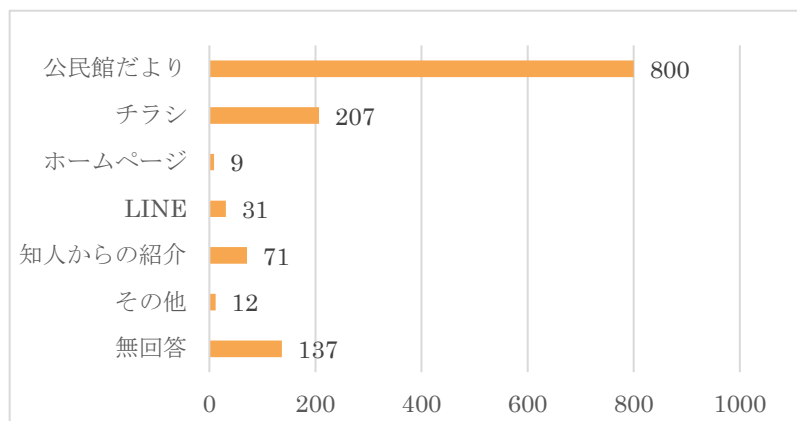


その他として高齢のため、交通手段がないという回答もあり、参加したくても参加できない状況にある方も一定程度おりました。

問9. これまでの取り組みで特によかったものを教えてください。(3つまで回答可)

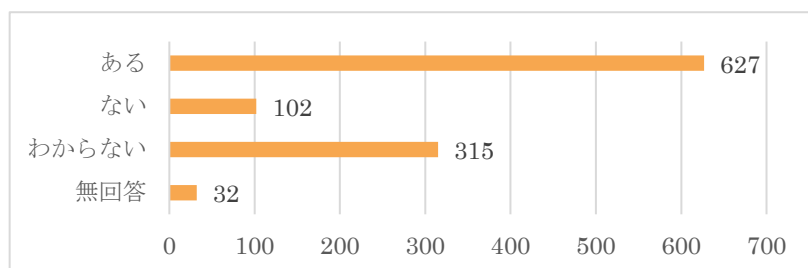


問10. 公民館、地域づくりの事業の情報をどちらで知りましたか。



公民館、地域づくりの事業の情報の入手方法ですが、公民館だよりが最も多く、チラシも見ていただいているようです。ホームページとLINEを合せると40件で、実人数は38人、そのうち14人が60代から上の方で、80代も2人いました。

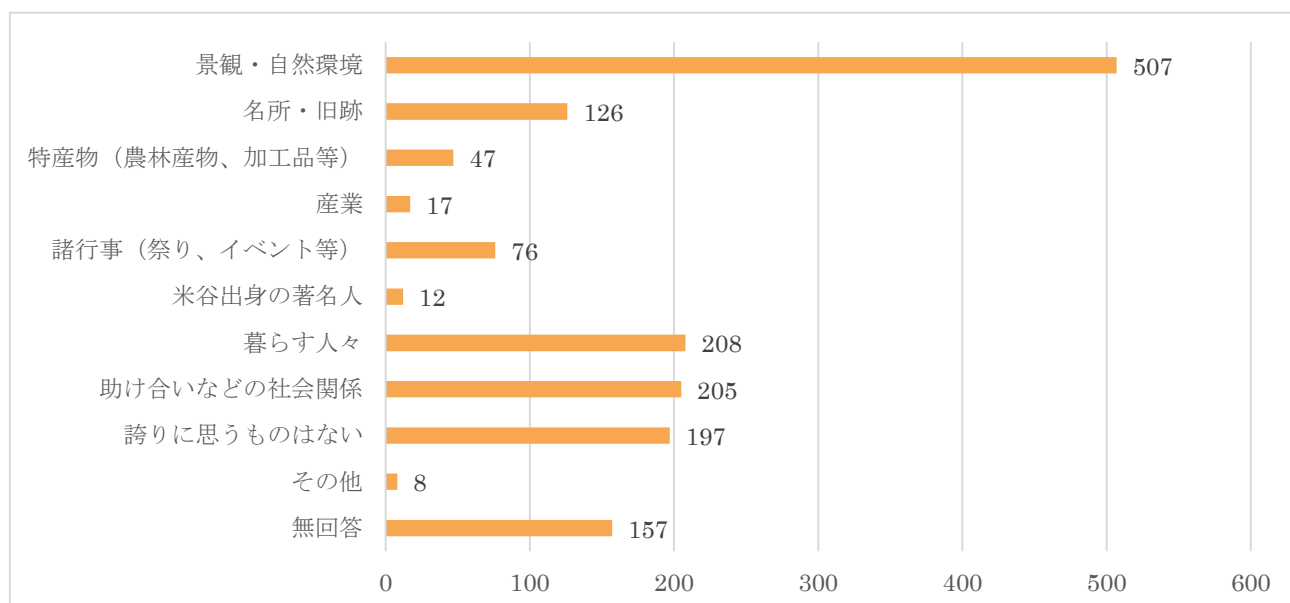
問11. あなたは、この地域・集落に愛着がありますか。



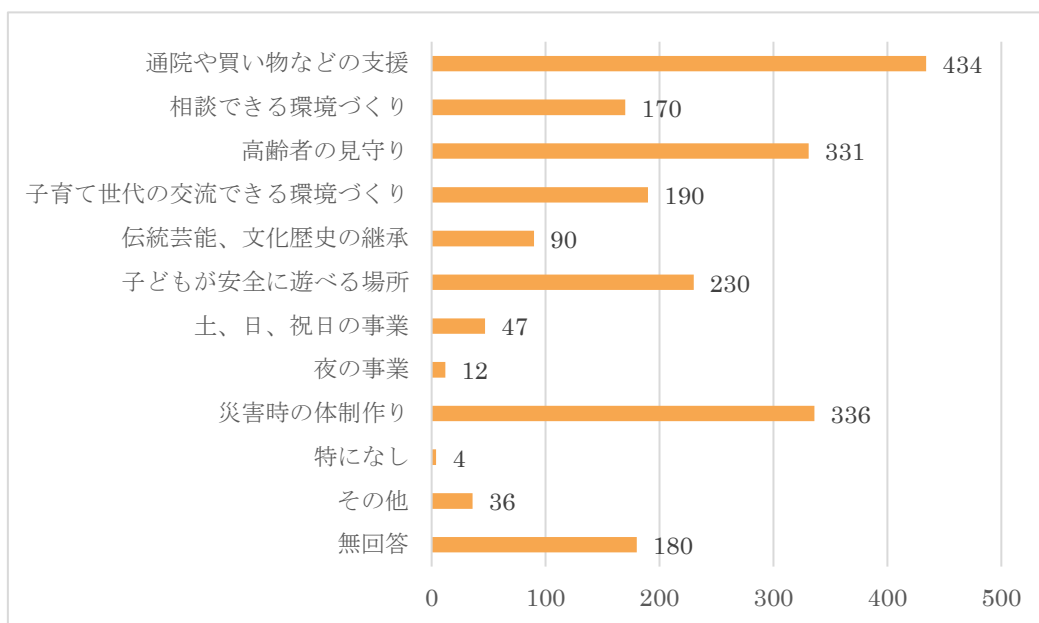
愛着があると答えた人は627人、ないが102人でした。これを年代別で見ると、10代から60代の方で愛着があると答えた方は概ね50%でした。一番少なかったのが30代で42%、多かったのが40代で58%でした。

なお、70代では70%、80代以上では73%のかたが愛着ありと回答しています。

問12. 地域・集落内で、あなたが誇りに思っているものは何ですか。(複数回答可)



問13. 地域をより良くしていくために、今後どのような活動に力を入れる必要があると思いますか。
(3つまで回答可)



一番多かったのが、通院や買い物支援などの交通支援、続いて高齢者の見守りと災害時の体制作りでした。災害発生時には高齢者は災害弱者となりやすいため、これらは一緒に考えていく必要があるかと思います。

(3) アンケートに寄せられた提言

①地域づくり活動に対して、どんな期待をお持ちですか

- ・大人と子供の遊べる場があると良い。通院・買い物の交通の便がもっと多いと良い。
- ・高齢者が多い地域、災害時の確認を出来るように行政と情報共有できる体制を作る。
- ・デマンドですが、もう少し（市民病院）広くしてほしい。
- ・子育て世代の交流できる環境づくり・イベント。
- ・若い世代の交流。
- ・やっこたこ作り、芋煮大会、子ども達と思い出作り。
- ・市の使われていない建物(学校 etc)の有効活用。
- ・若い人が住み良い町・地域づくり。他から移住しやすい市・町・村づくり。
- ・空き地や空き家対策、高齢世帯への声かけ等に関する講座。
- ・若者が残って生活できる街にする。
- ・自然豊かな景観の維持と、市民が安心して暮らせる環境づくりをしてほしい。
- ・さくら祭など楽しいイベントがたくさんあると良い。子供を連れて参加できるイベント等。
- ・空き家に移住してくる人が来て、活気が溢れば良いと思う。
- ・自然環境を生かした町になることを期待。
- ・安全に子供も大人も生活できる環境が持続してほしい。
- ・空き家、空き地のうまい活用によってもっと多くの人が米谷地区に住んでもらえたらいいですね！
- ・世代間交流ができる環境があればいいかな・・・。
- ・子ども達が地域に愛着を持てるよう大人達も愛着を持って様々な事に取り組んで欲しい。
- ・道の駅活用。
- ・年代問わず参加できるようなイベントを開催してもらいたい。
- ・地域づくりに関しては、特に「米谷のみらい」さん達の活動がとても素晴らしいと思います。

②地域づくりのリーダーになった場合、どんなことをやっていきたいと思いますか

- ・ 体育館で映写会をしたい。
- ・ 人口減少の中、30代40代の人達の活躍出来るよう、多くの人の思いを話せる機会をつくる。
- ・ お花見、祭などの行事を増やす。
- ・ 積極的に声かけをしていきたい。
- ・ 色々なスポーツの体験。
- ・ リーダーを支える人材育成と人材発掘。
- ・ 地域の行事に若い世代の方々の参加が減少しているため、SNS やチラシなどで呼びかけるなどし、参加を呼びかける。また来やすい環境づくりをする。
- ・ 若者がこの地域で暮らし続けたいと思えるような設備をと整えたい。
- ・ 外から登米市（米谷）に来て、米谷の花火、盆踊りがとても心に残っている。今の子ども達にも心に残るふるさとを与えたい。
- ・ 世代間交流の集まり。
- ・ 地域の人を楽しみに思える行事の計画、立案、促進を行う。
- ・ 空き家の管理。
- ・ 婚活。
- ・ 高齢者社会に向けて健康寿命をのばす為に「交流の場」を作り、孤立しないようにミニデイ活動をしていきたい。
- ・ 誰もが気軽に交流できる場所作り（世代関係なく）。
- ・ 孤立している高齢者へのサポートと子育て層へのサポートの両立（特に学習の場の提供）。
- ・ 地域で出来ることは地域で完結させる。それ以上のことは行政にお願いする。
- ・ 景観・自然環境の整備。
- ・ 地域の人々が交流できる機会をより楽しく提供していきたい。
- ・ 高齢者の見守り。
- ・ 公園施設の拡大。
- ・ 地域の皆さんの声を聞き、誰もがこの地域に暮らしたいと思う地域づくり。
- ・ 市からの委託だけに頼らず、活動の自立を旨とした事業等も考えてみたい。
- ・ 古民家再生による移住者を誘致。
- ・ 公園や広場等の子供や大人でも遊べる場所を作る。
- ・ 高齢者の交流。
- ・ 健康講座。趣味の持ち方など。
- ・ 多くの方（年齢を問わない）が地域づくりに参加できるよう、場の提供や興味・関心事になるような話題作りをしてみたいと考えます。
- ・ 年中県内外から人がいっぱいくるような観光の目玉づくり。
- ・ 三滝堂は盛り上がっているので、米谷の町にも何か店舗を作りたい。
- ・ 災害時の体制づくり。
- ・ 自然を大切にみんなが健康に過ごせる町づくりに取り組んでいきたい。
- ・ 地域の名産物をつくる。
- ・ 子どもが育っても愛着をもってもらえるようなイベント。
- ・ 地域外からも来るような楽しくて話題性が高い催し物。
- ・ 米谷のみらいと一緒に町おこしをしたい。
- ・ 互いに負担にならない程度のゆるいつながりを維持できる地域づくり。
- ・ 「夏のイベント」世代間の交流の場。
- ・ 気軽に立ち寄ってお茶のみができる場所作り。
- ・ 自分より下の世代の方々と意見交換が気軽にできる行事。

第2章 第二次計画の取組状況と課題

1 第二次計画の取組状況

第二次計画は、令和2年度を初年度として令和6年度までの5年間を計画期間として、令和元年度に策定しました。

(1) 第二次計画での基本テーマ

第二次計画においては、計画推進のための具体的な取組みとして次の5点を基本テーマとして取り上げました。

①人材豊富な米谷をつくる（人材育成）

地域活動を担う人材を育成します。

②安心安全な米谷をつくる（防災防犯）

地域住民の防災意識の向上を図ります。また自主防災組織の充実と連携を図ります。

③住み良い米谷をつくる（生活環境）

地域の歴史や文化、地域資源を活かした地域づくりを進めます。

④元気な米谷をつくる（健康）

体力づくりやスポーツを通して地域住民を健康にします。

⑤活性化した米谷をつくる（地域発展）

ほこりを持って住める地域にします。

(2) 第二次計画の実施体制

第二次計画の事業概要については、第一次計画からのほとんどの事業を引き継いできましたが事業の実施方法においては、米谷地域づくり推進協議会の5つの委員会にそれぞれの事業を担当する方法で行って来ました。

表5 第二次計画での事業取組み状況

基本テーマ	事業名	担当委員会	実施年度				
			R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
人材豊富な米谷	新春のつどい	自治委員会	●	○	○	○	○
	子どもリーダー育成事業	文化委員会	●	●	○	○	○
	ふるさと文化祭	文化委員会	●	●	○	○	○
	おしゃべり café	事務局			○	○	中止
安心安全な米谷	通学時の安全確保	交通防災委員会	○	○	○	○	○
	交通安全火災予防運動	交通防災委員会	○	○	○	○	○
	防災に関する研修会	交通防災委員会	○	○	○	○	○
住みよい米谷	花いっぱい運動	自治委員会	○	○	○	○	○
	ウォークラリー	産業観光委員会	○	○	○	○	○
	環境エコ運動	交通防災委員会	○	○	○	○	○
	世代間交流事業	文化委員会	●	●	○	○	○
	デマンド型乗合タクシー事業	自治委員会					○
	東和のさくら祭	産業観光委員会				○	○
元気な米谷	ナイターバレー大会	体育委員会	●	●	○	○	○
	市民運動会	体育委員会	●	●	●	○	中止
	冬季スポーツ教室	体育委員会	●	●	○	○	○
	ユニカール大会	体育委員会	●	●	○	○	○

活性化した 米谷	まいやん活用事業	産業観光委員会	○	○	○	○	○
	まいや光のページェント	産業観光委員会	○	○	○	○	○
	あおぞら市	産業観光委員会	○				

○=実施した

●=新型コロナウイルス感染拡大により中止

空欄=計画しなかった

2 第二次計画に取り組んでの成果と課題

第二次計画に掲げた5つの基本テーマを推進するために、委員会ごとに「盛り上げよう！おらほの米谷」を合言葉に事業を展開してまいりました。

アンケートの結果で重要度が高く満足感が少なかった移動支援については、令和6年度にデマンド型乗合タクシーの実証運行を開始することができ、令和7年度からの本格運行にこぎつけました。

令和5年に行った市民運動会では、小学生と教職員が小学校チームとして参加して、大会を大いに盛り上げることができました。

しかしながら、事業を進めるうえで担当者の高齢化や、若年層の参画者の減少なども相まって、事業は実施できても、その成果に満足がいけないものもありました。

さらには、令和2年に発生した新型コロナウイルスによる感染症拡大のため、公民館の使用制限や、集会での制限などにより、計画した事業ができなくなるなど、多難な計画期間でした。



第3章 基本方針

本計画では、第二次計画期間の取組について検証し、その結果明らかとなった課題等を整理し、さらにアンケート調査による地域住民の思いを踏まえ、おらほの米谷を盛り上げることを目標として掲げています。

この目標の達成に向け、第二次計画で取り上げた基本テーマを引き継ぎ、今後の5年間もこのテーマの更なる実現のために取り組んでまいります。

1 計画の目標

この計画は、米谷の生活環境、住民の米谷に対する思いを盛り上げることを目指します。

2 計画の期間

この計画の期間は、令和7年度を初年度とする5年間（令和11年度まで）とします。

3 基本的方策

(1) 基本テーマ

目標を達成するため、次の5つをテーマとして米谷を育てていきます。

① 人材豊富な米谷をつくる（人材育成）

地域活動を担う人材を育成します。

② 安心安全な米谷をつくる（防災防犯）

地域住民の防災意識の向上を図ります。

③ 住み良い米谷をつくる（生活環境）

地域の歴史や文化、地域資源を活かした地域づくりを進めます。

④ 元気な米谷をつくる（健康）

体力づくりやスポーツを通して地域住民を健康にします。

⑤ 活性化した米谷をつくる（地域発展）

ほこりを持って住める地域にします。

(2) 事業の進め方

第二次計画を進めるために5つの委員会で分担して事業を行ってまいりました。

第三次計画では、第二次計画のほとんどの事業を引き継ぐことから、事業実施体制も同様に5つの委員会で事業を担当して進めると同時に、新たな事業の展開を考えるためにプロジェクトチームを立ち上げてまいります。

また、事業に多くの住民が関われるよう委員会、プロジェクトチーム以外の協力者の参加も得ながら進めてまいります。

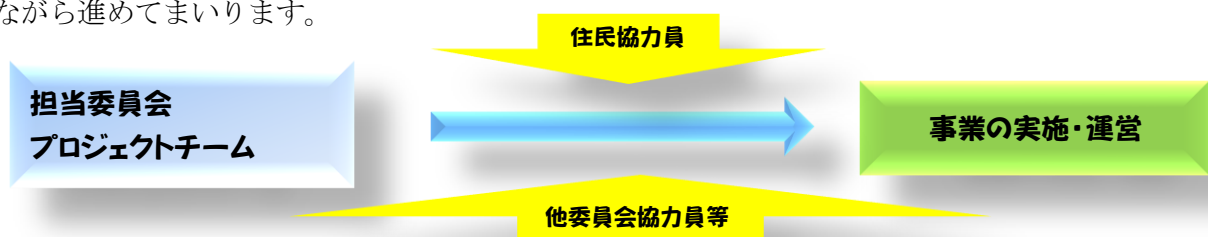


表6 第三次計画で実施する事業の担当委員会

担当委員会名	事業名
自治委員会	デマンドタクシー運行事業
	花いっぱい運動
	新春のつどい
産業観光委員会	まいや光のページェント
	ウォークラリー
	PRキャラクター(まいやん)活用
体育委員会	市民運動会
	スポーツ教室・大会
文化委員会	公民館まつり
	世代間交流事業
	子どもリーダー育成事業
交通防災委員会	防災講座
	環境エコ運動
	交通安全に関する事業
	火災予防に関する事業
プロジェクトチーム	ココヂカラプロジェクト



※ココヂカラとは・・・★此処の地から★個々の力★心★9つの力（9つの行政区）

(3) 事業の見直し

事業の実施については、常に検証を行い、計画期間中内でも必要に応じ事業の見直しを行って、質を高めてまいります。

また社会情勢の変化や住民ニーズの動向により、新たな分野への取り組みも検討します。



盛り上げよう！おらほの米谷



基本テーマ

人材豊富な
米谷

安心安全な
米谷

住み良い
米谷

元気な
米谷

活性化した
米谷

目標

地域を盛り上げる人が育つ米谷に
します

防災意識が向上し災害や事故のな
い米谷にします

豊かな自然と地域資源を活かして
快適な米谷にします

体づくりやスポーツで市民が健
康な米谷にします

誇りを持って住める米谷にします

具体的な取り組み

公民館まつり
リーダー育成事業
新春のつどい

防災講座
交通安全に関する事業
火災予防に関する事業

花いっぱい運動
ウォークラリー
世代間交流事業

市民運動会
スポーツ大会・教室

ココチカラプロジェクト
まいや光のページェント
まいやん活用事業

登米市全域図



【運営組織】

団体名：米谷地域づくり推進協議会

事務局：登米市東和町米谷字籾荷75 米谷公民館内

TEL：0220-53-2006

FAX：0220-53-2006

ホームページ：<https://miyagi-maiya.jp>

Email：info@miyagi-maiya.jp

LINE ID：@022tcw1k

Instagram：maiyan0714



Email



LINE



Instagram



資料編

資料1 第三次『米谷地域づくり計画』策定委員名簿

番号	所属	役職	氏名	備考
1	地域づくり推進協議会	会長	秋葉茂雄	策定委員長
2	地域づくり推進協議会	副会長	齋藤政孝	策定副委員長
3	地域づくり推進協議会	副会長	佐藤一志	策定副委員長
4	地域づくり推進協議会	自治委員長	阿部隆吉	
5	地域づくり推進協議会	自治委員会副委員長	鈴木有治	
6	地域づくり推進協議会	自治委員会副委員長	千葉久之	
7	地域づくり推進協議会	産業観光委員長	高橋松五郎	
8	地域づくり推進協議会	産業観光副委員長	千葉利行	
9	地域づくり推進協議会	産業観光副委員長	大友郁夫	
10	地域づくり推進協議会	体育委員長	菅原昭男	
11	地域づくり推進協議会	体育委員会副委員長	伊藤正博	
12	地域づくり推進協議会	体育委員会副委員長	後藤英典	
13	地域づくり推進協議会	文化委員長	阿部よし江	
14	地域づくり推進協議会	文化委員会副委員長	小塚洋子	
15	地域づくり推進協議会	文化委員会副委員長	千葉真由	
16	地域づくり推進協議会	交通防災委員長	浅野吉喜	
17	地域づくり推進協議会	交通防災副委員長	勝木田文広	
18	地域づくり推進協議会	交通防災副委員長	秋山信	
19	地域づくり推進協議会	監事	齋藤昭廣	
20	地域づくり推進協議会	監事	熊谷久夫	
21	地域づくり推進協議会	監事	齋藤勉	
22	上町親睦会		飯塚哲朗	自治会推薦
23	仲間町親和会		菅野忍	自治会推薦
24	下町町内会		田村翔	自治会推薦
25	横丁会		菅原浩三	自治会推薦
26	新小路町内会		首藤和哉	自治会推薦
27	鍛冶町町内会		狩野秀明	自治会推薦
28	裏一部落会		猪股弘	自治会推薦
29	天神前部落会		佐々木栄一	自治会推薦
30	細野部落会		佐藤義喜	自治会推薦
31	根廻自治会		佐藤竜太郎	自治会推薦
32	吉田自治会		佐藤孝	自治会推薦
33	大沢自治会		細川英輝	自治会推薦
34	寺沢部落会		村上涼	自治会推薦
35	城内町内会		秋葉加織	一般応募
36	米谷公民館	館長	齋藤茂春	
37	米谷公民館	事務員	佐藤洋一	
38	米谷公民館	事務員	千葉麻衣奈	
39	米谷公民館	集落支援員	菅原愛莉	

資料2 策定スケジュール

開催日	項目	テーマ / 検討事項
3月 6日 (水)	地域づくり推進協議会役員会	アンケート調査について
3月18日 (月)	アンケート配布	米谷在住の中学生以上に 2000 部配布
4月15日 (月)	アンケート回収	
4月～6月中	アンケート集計作業	
6月20日 (木)	地域づくり計画策定に関するヒアリング	市民協働課によるヒアリング
9月11日 (水)	第1回策定委員会	アンケート集計結果報告 ワークショップ (米谷の未来像を考える)
10月 9日 (水)	第2回策定委員会	ワークショップ (未来の米谷像を実現するための具体策を考える)
11月21日 (木)	第3回策定委員会	ワークショップ (計画実現に向けた道筋をたてる)
2月20日 (木)	第4回策定委員会	第三次米谷地域づくり計画 (案) について



資料3 策定委員会経過

【活動の経過】

◆米谷地区地域づくりアンケート

期間：令和6年3月18日（月）～令和6年4月15日（月）まで

回収枚数：1076部

◆第1回策定委員会

日時：令和6年9月11日（水）19時より

人数：25名

内容：アンケート集計結果報告

ワークショップ

（米谷の未来像を考える）



◆第2回策定委員会

日時：令和6年10月9日（水）19時より

人数：21名

内容：ワークショップ

（未来の米谷像を実現するための具体策を考える）



◆第3次策定委員会

日時：令和6年11月21日（木）19時より

人数：20名

内容：ワークショップ

（計画実現に向けた道筋をたてる）



◆第4回策定委員会

日時：令和7年2月20日（木）19時より

人数：20名

内容：第三次米谷地域づくり計画（案）について



◆第4回役員会

日時：令和7年2月28日（金）19時より

人数：20名

内容：第三次米谷地域づくり計画の承認について



米谷地域づくり推進協議会

PRキャラクター

「まいやん」

誕生の経緯

米谷の地域づくりを進めるための一助として、キャラクターをつくることになり、平成27年10月に米谷の児童を対象にキャラクターを募集しました。

応募作品数53点の中から一次選考通過作品16点に対し、平成28年1月に米谷公民館で投票を行い、同年3月6日に行われた「第11回米谷ふるさと文化祭」にて結果を発表しました。

米谷の自然の「森」「川」をとり入れ、体の川は相川の三滝堂の川を表現しています。

プロフィール

性別:妖精

生年:明治4年

住所:米谷の森

好物:みんなの笑顔

趣味:お宅訪問

特技:山や川をきれいにすること

秘密:おなかの魚が話せることはないよ



「まいやん」はいろいろなことに挑戦しています！！



第三次米谷地域づくり計画

令和7年3月1日

米谷地域づくり推進協議会
事務局 登米市米谷公民館

〒987-0902

宮城県登米市東和町米谷字杣荷 75

☎0220-53-2006